

学校通信

学校生活における大切なお知らせです

9

2026 SEP

第 280 号

学校長からのメッセージ

この夏、朝早くから YMCA 学院高校には、元気な「おはよう！」という子どもたちの声が響き、送り迎えをする保護者の方の姿も見られます。本校が 2017 年度に今の校舎へ移転して以来、初めて目にする賑やかな光景に、私自身もとても新鮮な気持ちでいっぱいです。

実は今、皆さんが体育のスクーリングで利用している「南 YMCA」の会館が設備不良のため、本来そちらで予定されていた活動を急遽、本校に振り替えて実施しています。そのため現在、ランゲージセンターの夏休み特別プログラムとして、幼い子どもたちが本校で英会話を学んでいます。さらに 9 月中旬には、日本語学校の留学生たちもこの校舎で学ぶ予定です。高校生だけでなく、子どもから留学生まで、さまざまな人が同じ校舎に集い、それぞれの学びを進めています。

YMCA は、心・知性・身体の調和のとれた成長を願い、野外教育、体育・健康教育、国際教育、語学教育など、約 180 年間幅広い活動を展開してきました。一つの建物にさまざまな活動があり、多様な人が集う。その環境を、私たちは時に「地球のような場所」と表現します。そこには、思いがけない「出会い」があります。

今回の夏プログラムのように、大阪 YMCA が約 130 年以上取り組んできた英語教育もまた、単に言葉を学ぶだけではなく、異なる文化や価値観を知り、人と人がつながることを大切にしてきました。自分とは異なる誰かとの出会いは、自分の世界を広げ、新しい気づきを与えてくれます。人の豊かさとは、さまざまな人や価値観に触れ、自分の中に新しい視点を増やしていくことなのかもしれません。

さて、こうした「多様な学びと出会う機会」は、日々の学校生活の中にもたくさん用意されています。まもなく後期の時間割登録が始まります。単に「単位を取って卒業する」だけではなく、一人ひとりが自分の可能性を広げられるよう、コースや選択科目など、総合学科としての学びの環境を整えています。ぜひ、少し心に余裕を持って科目を選び、さまざまな学びや新しい自分との出会いを楽しんでください。

この秋、皆さんにどんな出会いが待っているのか。私自身も楽しみにしています。

(校長 池田 博人)

「そこでは、もはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」 — ガラテヤの信徒への手紙 3 章 28 節





今月の聖句

「賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。」

(コリントの信徒への手紙Ⅰ 12章4節)

人にはそれぞれ、特別な才能が与えられています。神様が与えてくださった特別な才能のことを「賜物」と言います。その賜物は人によってそれぞれ違います。自分に与えられた賜物がどのようなものであるのかを知って、その賜物を活かしながら生きていくことができれば、とても幸せな人生を送ることができるはずです。

私は子どもの頃から、自分にはバスの運転の賜物があると信じていました。初めて憧れた職業がバスの運転手でした。大人になり車を運転するようになって、その思いが確信へと変わりました。バスの運転手こそ天職だと思っていました。ところが、いろいろあって牧師になることになりました。牧師になってみると、それもまた天職だと思えるようになり、もう24年以上続いています。ただ、いまだにバスの運転手を諦めきれません。

すると、数年前の卒業生がバスの運転手になったのです。すぐに彼の運転する路線バスに乗りに行きました。新人運転手ですが、目配り、心配りの行き届いた優しい運転をする運転手さんでした。私がずっと憧れてきた制服を着て、マイクアナウンスをしているその姿を乗客として見てみると、私の代わりに彼が夢を叶えてくれたように思えたのです。「あなたには牧師や教師の賜物を与える。そしてその教え子に運転手の賜物を与えるから、その姿を通して憧れる心を満たしなさい。」そんな神様の声が聞こえてきたように思えました。



「今月の聖句」 自己紹介

福島 義也（ふくしま よしや）

河内長野みぎわ教会の牧師で、YMCA 学院高校の

非常勤講師をしている福島義也です。

小さな虫から大きな動物まで、すべての生き物が好きです。車やバイク、音楽、スポーツも好きです。

身近な所に散りばめられている神様の恵みを伝えていきたいと思っています。

